

どんな会社？

データ収集と活用で医療の向上に貢献

メディカル・データ・ビジョン（以下MDV）は2003年、医療情報の活用を通じて、医療の質の向上に貢献することを目指し設立された。

事業は2本柱で構成される。第一は、データネットワークサービスだ。医療機関に経営支援システム等を提供するとともに、診療情報の二次利用の許諾を得ることで、データを活用する。

第二は、蓄積したデータの活用サービス。データを分析し、医薬品・健康食品メーカーや研究機関などに、マーケティングや開発

の診療データベースを保有し、その規模は日本国民のおよそ9人に1人の規模に相当する。

さらに見逃せないのが、データベースに関わるノウハウだ。医療データは集めただけでは何もできない。データを精度の高い情報として利用できるかどうかは、医療知識はもちろんのこと、データ処理や分析に関わる高度な技術の保有にかかっている。MDVでは、医療にも情報技術にも精通した人材のほか、医療情報とデータ分析の両知見を持ったデータサイエン

医療ビッグデータの パイオニア！ 圧倒的な量と質で 医療・健康分野を革新

カルテに記載される診療情報は、患者本人も見ることが叶わない。そこに疑問を持つことからスタートし、医療界の慣行に風穴を空けたベンチャー企業がある。カバーするデータの量と質は他の追随を許さない。医療の向上を目指し、事業は新たな局面に入っている。

に役立つ情報として提供する。

医療機関は同社が提供するシステムで、自院の診療内容を他院と比較しながら検証できるため、治療効率を高められる。医薬品メーカーは薬の実際の使われ方や効果をデータで確認し、副作用や効果効能の研究、営業活動に生かすことができる。医療業界では医療ビッグデータのパイオニアとして知名度が高まっている。

さらに、最先端サービスとして「カルテコ」がある。

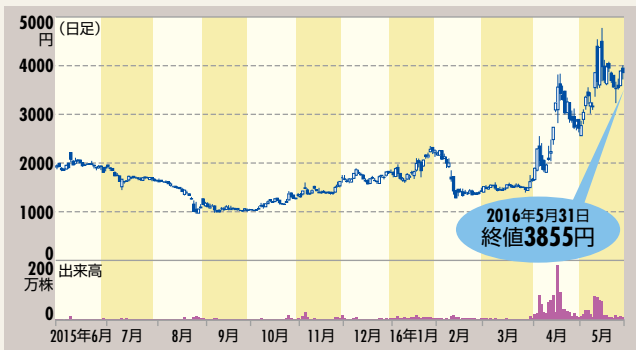
例えば、あなたは自分のカルテを持っているだろうか。自分自身が生まれた時から、どんな病気・ケガで、どんな投薬・治療を受けて、その後の経過がどうだったか、すべてを正確に把握している人はほとんどいないはずだ。データを自

テストを、専門部署を設けて配置。これらが揃っているMDVだからこそ、医療データを利用価値の高いビッグデータとして活用できるのだ。

これらデータの収集を可能にしたのは、MDVのもう一つの強みである医療機関から寄せられる圧倒的な信頼だ。2003年に厚労省が導入した一部定額払いの医療制度DPCに対応する全国約1600の病院のうち、実に約45%が同社の経営支援システム「EVE（イブ）」を導入している。手厚い

成長期待が大きく、株価は上昇基調！

メディカルデータビジョン株式会社



2015年12月期決算で、目標の「売上高30%前後増、経常利益率10%前後」をおおむね達成。医療機関、個人向けの新サービスが追い風になるとの判断もあって、株価は上昇基調だ。

業績(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)	1株配(円)
13.12	1,530	209	210	204	56.60	0
14.12	1,950	260	248	135	36.06	0
15.12	2,413	282	280	164	35.33	0
会社予想 最新	16.12	3,000	302	300	174	37.03

【業種】
情報・通信

【主要市場】
マザーズ

【決算】
12月末

【単元株数】
100株

		割 安 度		収 益 度		成 長 度	
株価指標		予想PER	PBR	予想ROE	予想売上高 経常利益率	予想売上高 伸び率	
※データは フィスコ提供	5/31現在	104.60倍	7.31倍	6.90%	10.00%	24.30%	
	業種平均	51.39倍	5.11倍	14.03%	8.76%	13.11%	

※データは
フィスコ提供

何がフゴイの？

国民の1割超のデータ！ 専門ノウハウにも注目

分で管理できれば、たいそう便利なことだろう。いわゆる医療のムダも排除できるかもしれない。「カルテコ」は、これを可能にする。同社のシステムを導入する医療機関での受診内容や検査結果、処方薬などの記録をウェブ上で一括して保管、患者自身が閲覧できる仕組みだ。ビッグデータの活用が進む今日にあって、アナログな世界と言われる医療業界に一石を投じる画期的なシステムである。

なんとといってもMDVの大きな強みは、独自に保有する医療ビッグデータだ。今や約1440万人

将来性は？

カルテコの展開で 医療ビッグデータ拡大

現在、MDVの「カルテコ」をはじめとする仕組みと、既存電子カルテを連携させる取り組みが進む。よりスピーディーな診療情報の収集で、医療ビッグデータの活用をさらに加速する。

また、MDVのシステムを入れた病院が発行する共通診療券「CADA（カーダ）」に決済機能を付ける実験もスタートしている。患者は、長い支払いの待ち時間がなくなるつえ、例えば、自己負担分の医療費を分割で支払うことも可能となる。

これらの取り組みを背景に、一般的な医療サービスをカバーする全国350程度の二次医療圏で、まずは1病院ずつのシステム採用を当面の目標としている。データ精度をより高めるためには地域に偏ることなく、全国に広くネットワークを構築するのが得策との判断である。

患者による「カルテコ」利用可能医療機関の選別も想定され、導入した病院では新規の患者数が20%程度増加した実績もある。採用医療機関は加速度的に拡大すると予想され、事業は新たな局面を迎えることになる。

●診療情報を保管・閲覧できる「カルテコ」



共通診療券「CADA」で受診した診療情報の一部（＝カルテ情報）はウェブで保管・閲覧できる。検査や投薬の記録はわかりやすく、次回受診の際の参考にもなる。

※写真はイメージ

i n f o r m a t i o n

7月1日に株式分割を予定 株主優待制度もスタート

所有株式数	株主優待内容
100株以上	クオカード1000円分



事業の拡大にともなう、MDVは7月1日を効力発生日として株式分割を行なう予定だ。1株を2株の割合で分割するため、より投資しやすい環境が整うことになる。分割による収益アップを狙う投資家にも、絶好のチャンスとなるだろう。基準日は、6月30日だ。さらに、株主優待制度もスタートする。同社の期末日である毎年12月31日現在の株主のうち100株以上の保有者を対象に、クオカード1000円分が贈られる。クオカードは、コンビニエーンやファミレス、ファストフード、ドラッグストアをはじめ、全国約5万5000店で使用できる利便性の高いプリペイドカード。MDV株の魅力がより高まることは間違いない。

t o p i n t e r v i e w

2014年、設立11年で上場 医療向上に向け事業は新たな段階に

メディカル・データ・ビジョン 代表取締役社長 岩崎博之（いわさき・ひろゆき）

患者さんが診療料を払って作ってもらったカルテを閲覧できない…。そこを不思議に思ったことが、起業への第一歩でした。診療情報のデータベース化で、医療機関は患者属性や症例に応じた最適な医療を選択しやすくなります。医薬品メーカーは、薬の使用法や効果の実際を把握でき、開発や営業に活用できます。そして患者自身も、自らのカルテを閲覧できるようになり、効率のよい、質の高い医療を期待できるのです。医療の向上を信じる利用者や出資者に恵まれ、設立から11年で上場を果たしました。ネットワークは順調に拡大し、データの利活用は保険関係などにも広がっています。既存サービスに新機能を付加して、さらなる飛躍を図ります。



撮影／山本祐之